

平成 31 年 3 月 12 日

益田市医師会 益田圏域医療・介護推進体制構築事業について（事業報告）

しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）

益田市医師会は、益田圏域において「在宅を中心とした安心して暮らせる地域づくり」を推進するため、医療介護推進プロジェクトにより圏域の医療・介護資源の有効活用が図られるよう、様々な取り組みを実施しています。

平成 30 年度も昨年度に引き続き、益田圏域医療・介護推進体制構築事業として、医師が不足する中で特定看護師を育成・活用し病院から在宅への患者をスムーズに移行させる体制の整備や、病床機能分化・連携、地域包括ケアシステムの推進に向けたリーダー的人材の育成等、この地域が抱える課題を解消するための事業を実施しましたので報告します。

【平成 30 年度の取り組み概要】

1) 特定看護師の実践環境の整備

- 養成した特定看護師がより安全・効率的に特定行為が実施できる環境整備として、携帯型超音波診断装置の整備及び、末梢中心静脈カテーテル挿入のトレーニング・シミュレータの整備を行った。
- 地域医療振興協会（東京）の研修センターに特定看護師を派遣し、指導医からの超音波診断技術指導を受講。その他、トレーニング・シミュレータを活用した研修や医師会病院の主催する圏域の研修医向け救急総合診療診断の教育指導セミナーに参加させるなど、特定看護師のスキルアップに努めた。
- 特定看護師が安全かつ効率的に特定行為を実施できる環境も徐々に整い、今年度は患者の退院後訪問も実施でき活躍の範囲も広がっている。

2) 医療機能分化・病床機能転換を推進するリーダー人材育成

- 大阪府・兵庫県においてエリア単位で医療・介護連携の先進的な取り組みを行っている社会医療法人愛仁会グループの本部（以下、愛仁会）に、事務管理職（老健事務次長）を 3 ヶ月間（7 月～9 月）派遣し、医療介護連携や地域包括ケア等のエリアマネジメントの実践研修を実施、その研修成果を院内外者に対し報告した。
- また長期研修終了後、11 月 29・30 日には、愛仁会介護福祉統括部長による益田圏域での老健施設を中心とした医療介護連携上の課題や解決策の現場指導、2 月 21・22 日には現場実務者による愛仁会各事業所の現地視察を実施するなど、益田圏域における医療機能分化や病床機能転換の推進等の中心的役割を果たすリーダー人材の育成につながった。

3) 在宅医療の体験研修を通じた資質向上と従事者の拡大

- 病気や障害があっても、あるいは終末期の状況であっても、個々人が住み慣れた場所で最期まで心穏やかに住み続けることを支える訪問看護や訪問リハビリの必要性和役割を知ってもらうために、訪問看護ステーションおよび訪問リハビリテーション事業所での体験研修を実施した。

圏域内の医療機関、行政、通所施設等より、訪問看護体験 3 名（管理栄養士 2・ケアマネ 1）、訪問リハビリ体験 4 名（看護師 1・理学療法士 1・作業療法士 1・ケアマネ 1）の参加があった。

4) 地域連携を担う実務担当者との関係強化（実務者連携会議の定期開催）

- 入退院・転院などの実務を担う担当者の集う実務者会議を定期開催し、圏域の円滑な病床利用や在宅退院困難ケースへの対応等について協議した。今年度より行政も会議に加わり、今後はテーマに応じてケアマネ等の参加呼びかけも検討中。引き続き FACE TO FACE の関係づくりを強化したい。

※5/25 開催（担当：松ヶ丘病院）、12/10 開催（担当：益田赤十字病院）

3/19 開催予定（担当：益田医師会病院）